

2026年の投資戦略： 4つの注目分野

投資家に強靭性と分散効果をもたらす可能性のある投資機会を、株式、債券、クレジット、コモディティ全般にわたって探ります。



投資テーマ	見通し	投資へのヒント
-------	-----	---------

1

株式：
表面上は割高だが、
水面下に価値

ハイテク株が最近の株価上昇を牽引していますが、見落とされているセクターやグローバル市場にバリュー投資の機会は残っています。

過小評価されているセクターや、堅固なバランスシートと健全な成長を特徴とする魅力的なバリュース株に投資妙味があるでしょう。

2

現金は戦略にあらず：
債券の魅力

現金の利回りが低下しているため、インカムと成長の観点から債券の魅力がより高まる可能性があります。

現金から、満期が2年から5年の質の高い債券へのシフトをご検討ください。

3

**金、暗号資産、実物資産
への探求**

金の価格上昇と実物資産の潜在的な強靭性は、分散化されたインフレに強いポートフォリオの重要性を浮き彫りにしています。

ポートフォリオの強靭性とインフレ対策を強化するために、金や幅広いコモディティへ適度に分散した配分をご検討ください。

4

クレジット市場：
リスクとリターンの見極め

クレジット・スプレッドがタイトになり、プライベート市場のリスクが高まる中、リスクや流動性の低さに見合うリターンを確保するため、銘柄選びの慎重さが一段と重要になっています。

パブリックとプライベートの両市場を横断するアクティブ運用で、流動性とリターンの最適なバランスを追求するのがよいと考えています。経験豊富な運用担当者と、規律ある引受業務を重視した投資戦略をご検討ください。

過去の実績は将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

すべての投資にはリスクが伴い、価値が下がる可能性があります。**債券市場**への投資には、市場リスク、金利リスク、発行体リスク、クレジットリスク、インフレリスク、流動性リスクなどのリスクが伴います。ほとんどの債券と債券戦略の価値は、金利の変動の影響を受けます。デュレーションが長い債券や債券戦略は、デュレーションが短い債券よりも感度が高く、ボラティリティが高い傾向があります。債券価格は一般的に金利が上昇すると下落し、低金利環境ではこのリスクが高まります。債券のカウンターパーティ・キャパシティの減少は、市場の流動性の低下と価格のボラティリティの増加に寄与する可能性があります。債券投資は、償還時に元のコストよりも価値が高い場合も低い場合もあります。**政府が発行するインフレ連動債(ILB)**は、インフレ率に応じて元本価値が定期的に調整される債券です。実質金利が上昇するごとにILBの価値は低下します。**物価連動国債(TIPS)**は、米国政府が発行するILBです。**モーゲージ債や資産担保証券**は、金利の変動に敏感で、早期返済リスクを伴い、一般的には政府、政府機関、または民間の保証人によって支援されていますが、保証人がその義務を果たすという保証はありません。エージェンシー証券および非政府機関系モーゲージ担保証券とは、米国で発行されたモーゲージ証券を指します。CDO(Collateralized Debt Debt Debt)、CPPI(Constant Proportion Portfolio Insurance)、CPDO(Constant Proportion Debt Debt Forwards)などの**ストラクチャード商品**は、通常、高いリスクを伴う複雑な商品であり、適格投資家のみを対象としています。これらの商品の使用には、投資した元本以上の損失を被る可能性のあるデリバティブ商品が含まれる場合があります。市場価値は、経済、金融、政治環境(スポット金利、先物金利、為替レートを含むが、これらに限定されない)、満期、市場、および発行体の信用力の変化によっても影響を受ける可能性があります。**プライベート・クレジット**とは、非上場証券への投資であり、非流動性リスクを負う可能性があります。プライベートクレジットに投資するポートフォリオはレバレッジがかかっており、投資損失のリスクを高める投機的な投資慣行に従事する可能性があります。**外貨建て証券および/または外国籍証券**への投資は、為替変動によるリスクの増大や、新興国市場では高まる可能性のある経済的および政治的リスクを伴う可能性があります。**為替レート**は短期間で大きく変動する可能性があり、ポートフォリオのリターンを低下させる可能性があります。**株式**は、現実の市場、経済、業界の状況と認識されている状況の両方により、価値が下落する可能性があります。**マネジメント・リスク**とは、投資マネージャーが適用する投資手法やリスク分析が望ましい結果をもたらさないリスク、および特定の方針や開発が戦略の管理に関連してマネージャーが利用できる投資手法に影響を与えるリスクです。特定の証券または証券グループの**信用力**は、ポートフォリオ全体の安定性または安全性を保証するものではありません。**分散投資**は損失を防ぐことを保証するものではありません。

本資料に含まれる予測や推計及び特定の情報は独自のリサーチを基としており、投資助言や特定の証券、戦略、もしくは投資商品の推薦を目的としたものではありません。予測や推計には本質的な限界があり、実際のパフォーマンス・レコードと異なり、実際の取引や流動性の制約、手数料およびその他の費用が反映されていません。さらに、将来のパフォーマンスに関する記載は、顧客のポートフォリオにおけるパフォーマンスを推定あるいは約束すると解釈されるべきではありません。

金融市場動向やポートフォリオ戦略に関する説明は現在の市場環境に基づくものであり、市場環境は変化します。本資料で言及した投資戦略が、あらゆる市場環境においても有効である、またはあらゆる投資家に相応しいという保証はありません。投資家は、自らの長期的な投資能力、特に市場が悪化した局面における投資能力を評価する必要があります。投資判断にあたっては、必要に応じて投資の専門家にご相談ください。見通しおよび戦略は予告なしに変更される場合があります。

相関とは2つの証券が相互にどう動くかを統計的に算出したものです。**デュレーション**は、債券価格の金利変動に対する感応度を計測するものであり、単位は年で表されます。

本資料には、資料作成時点でのPIMCOの見解が含まれていますが、その見解は予告なしに変更される場合があります。本資料は情報提供を目的として配布されるものであり、投資助言や特定の証券、戦略、もしくは投資商品の推薦を目的としたものではありません。本資料内の情報は、信頼に足ると判断した情報源から得たものですが、その信頼性について保証するものではありません。

PIMCOジャパンリミテッドが提供する投資信託商品やサービスは、日本の居住者であり、かつ法律による制約のない方に対して提供するものであり、かかる商品やサービスが許可されていない国・地域の方に提供するものではありません。運用を行う資産の評価額は、組入有価証券等の価格、デリバティブ取引等の価値、金融市場の相場や金利等の変動、及び組入有価証券の発行体の財務状況や信用力等の影響を受けて変動します。また、外貨建資産に投資する場合は為替変動による影響も受けます。したがって投資元本や一定の運用成果が保証されているものではなく、損失をこうむることがあります。運用によって生じた損益は、全て投資家の皆様に帰属します。弊社が行う金融商品取引業に関してお客様にご負担頂く手数料等には、弊社に対する報酬及び有価証券等の売買手数料や保管費用等の諸費用がありますが、それらの報酬及び諸費用の種類ごと及び合計の金額・上限額・計算方法は、投資戦略や運用の状況、期間、残高等により異なるため表示することができません。

PIMCOは、アリアンツ・アセット・マネジメント・オブ・アメリカ・エルエルシーの米国およびその他の国における商標です。本資料の一部、もしくは全部を書面による許可なくして転載、引用することを禁じます。本資料の著作権はPIMCOに帰属します。2025年
(注) PIMCOはパンシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーを意味しその関係会社を含むグループ総称として用いられます。

ピムコジャパンリミテッド

東京都港区虎ノ門2-6-1 虎ノ門ヒルズステーションタワー19階
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第382号
加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、
一般社団法人 投資信託協会、
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会